

千葉市のコミュニティ施設における圏域外利用の現状について

日大生産工（院） ○土屋 貴広
日大生産工 広田 直行

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

今日の我が国における地縁的なコミュニティ活動を支えるための施設として代表的なものに公民館とコミュニティセンターがある。

公民館は1949年に社会教育施設として旧文部省の管轄のもと整備され、それ以来地域のコミュニティの拠点となっている。一方、コミュニティセンターは1973年に旧自治省のモデルコミュニティ事業として、千葉市をはじめ整備が進められている。

近年、利用者の学習要求の多様化に伴い、公民館・コミュニティセンターではさまざまな活動がみられる。しかし、施設単体ですべての要求を満たすことは困難であり、新たな機能を付加しようにも耐震補強等の要求も高まる今、手が回らないというのが現状である。

その問題を解決する有効な手段としてネットワーク化がある。異なる管轄の施設ではあるが、類似する機能を保有する施設同士の連携により、空き室改善・機能補完といった効果があると考えられる。

そこで本研究では、公民館とコミュニティセンターを対象としネットワーク化の可能性を探るため、その初期段階として2施設間の圏域外利用の現状を明らかにすることを目的とする。ここでいう圏域外利用とは、公民館利用者がコミュニティセンターを利用すること、またコミュニティセンター利用者が公民館を利用

表 1 調査対象施設概要

事例No.	施設名	建築年	延床面積(m ²)	使用人数
1	長作公民館	1983年	526.84	15,697
2	幕張本郷公民館	1994年	735.08	31,698
3	花園公民館	1993年	914.79	45,035
4	幕張公民館	1993年	1,178.76	50,745
5	畑コミュニティセンター	1979年	2,494.10	55,752
6	幕張コミュニティセンター	1979年	3,122.40	110,261

することを示す。

1-2. 研究の対象と方法

本研究では、千葉市の公民館 47 事例とコミュニティセンター14 事例を対象とする。本稿では、調査が終了している公民館 4 事例とコミュニティセンター2 事例について報告する。表 1 にその概要を示す。

調査方法は、各施設の利用者へアンケート調査により圏域外利用の現状を把握する。質問項目を表 2 に示す。

2. アンケート集計結果

2-1. 調査対象者属性

表 3 より、すべての事例において共通することは、利用者は圧倒的に女性の方が多いという点である。特に事例No.6 においては 84.1%を女性利用者が占め、事例No.4 を除く 5 事例では女性利用者が 70%を超えている。事例No.4 においては、アンケート調査実施時に活動をしていた囲碁サークルに男性利用者が多くこのような比率になったと考える。次に表 4 より、年齢別に利用者数をみると、事例No.2 を除くすべての事例で 60 代、70 代の利用者が比較的多いこと

表 2 アンケート項目

基本情報
1. 性別
2. 年齢
公民館・コミュニティセンターについて
3. 移動方法
4. 所要時間
5. 利用する室名
6. 活動内容
圏域外利用について
7. 移動方法
8. 所要時間
9. 圏域外利用を行う理由
10. 利用する室名称
11. 活動内容

About the present situation,outside of range using of community facilities in Chiba city
Takahiro TSUCHIYA, Naoyuki HIROTA

が いえる。また、80 歳以上の利用者が極端に少なくなる傾向がみられるが、これは身体機能の低下により外に出て活動することが困難になるためと考える。一方、事例No.2 では 60 代、70 代の利用は多くはないが、これは調査を実施した人数が少なく十分な結果を得られなかったためと考える。

事例No.3、事例No.6 にみられる特徴として、30 代、40 代の利用者が多いことがいえる。このような結果が得られた背景として、幼稚園児向けのリトミックサークルや育児サークルが挙げられる。これらの活動の対象は主に幼稚園児以下の子供とその親であり、30 代、40 代の利用者数が増加した要因といえる。また、それらの活動に参加するのは主に母親であり、女性利用者が増加する要因の 1 つと考える。

2-2. 移動手段と所要時間

図 1 より、事例No.1、事例No.4 では移動手段は主に徒歩、自転車、車であり所要時間は 5～15 分がほとんどを占めている。これより利用者は比較的近隣の住民に限られており、他の地区から利用しにくる人は少ないといえる。

事例No.5 では、徒歩と車において 5～10 分が多いことに加え、自転車で 15～20 分、車とバスで 30 分以上が多いといえる。これより、近隣住民のみならず他の地域から利用者が来館しているといえる。一方で電車の利用が少ない要因として、最寄り駅から徒歩で 30 分ほどかかることが考えられる。

3. 圏域外利用

3-1. 施設の立地条件と交通条件について

図 2、図 3 より、圏域外利用が 20%以上の事例No.3、No.5、No.6 をみると、事例No.3 の場合最寄り駅から徒歩 5 分と距離が近いことがわかる。一方、事例No.5 では最寄り駅から徒歩 15 分、事例No.6 では徒歩 30 分ほどかかる。最寄り駅から離れているにもかかわらず圏域外利用が高い要因としては、車での利用のしやすさが考

表 3 男女別調査実施人数

事例No.	男性		女性		不明		合計
1	3人	9.4%	24人	75%	5人	15.6%	32人
2	6人	25%	17人	70.8%	1人	4.2%	24人
3	13人	16.7%	55人	70.5%	10人	12.8%	78人
4	19人	28.8%	32人	48.5%	15人	22.7%	66人
5	11人	24.4%	32人	71.1%	2人	4.4%	45人
6	3人	3.4%	74人	84.1%	11人	12.5%	88人

表 4 年齢別調査実施人数

事例No.	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
1					1	16	11	4
2			1	10	5	5	1	1
3			16	12	5	23	19	3
4		1		7	3	21	21	12
5			1	3	8	12	18	3
6		2	23	7	4	30	17	1
合計		3	41	39	26	107	87	24

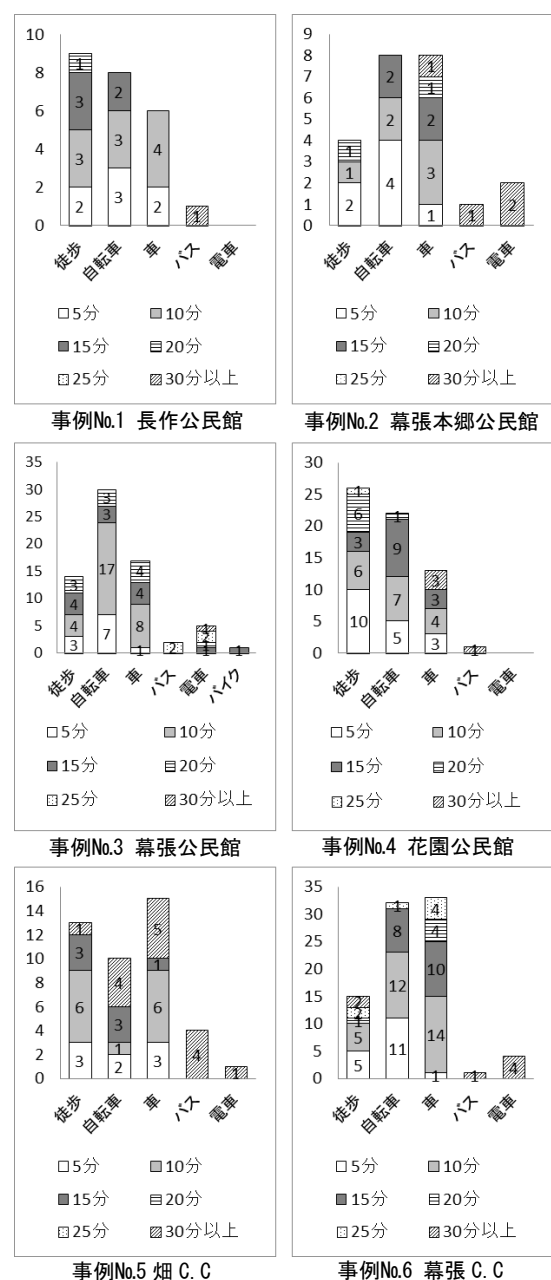


図 1 移動手段別所要時間

えられる。そこで、駐車場の駐車可能台数をみると公民館では10台前後なのに比べ、コミュニティセンターでは事例No.5で59台、事例No.6では27台と公民館を大きく上回っている。

これより圏域外利用が行われるための要因として、最寄り駅からの距離と車の駐車可能台数が関係しているといえる。

3-2. 圏域外利用施設について

図4より、事例No.2を除いたすべての事例で圏域外利用を行う施設は調査を実施した施設から最も近い施設となっている。また、事例No.3と事例No.6は施設間の距離が近く、相互の利用がみられる。

これより、施設間の距離が圏域外利用を行う際に関係する要因という傾向がみられるが、今後サンプル数を増やし検討する必要がある。

3-3. 圏域外利用に関係する要因について

表5より、圏域外利用に関係する要因についてみると、すべての事例に共通することは、「違う活動をするため」という回答が最も多くみられることである。これより、どの施設も圏域外利用により機能の補完が行われているといえる。

事例No.3でみられる圏域外利用をする理由

として、「月2回までしか公民館を利用できないため」という回答がある。事例No.3は施設利用人数が公民館の中で最も多く、平等な施設利用のために設けられた制限と考えられる。これより、利用人数が多く活動が活発な公民館では使用回数制限が圏域外利用を促しているといえる。

事例No.4にみられる圏域外活動をする理由として、「より高いレベルの活動をするため」という回答がある。これは活動を行っていくうちに技術を習得し、より高いレベル、より良い施設で活動を行いたいという「スプリングボード現象※」が起こっているといえる。これより、スプリングボード現象によって圏域外利用が行われるといえる。

また、「公民館は活動が地域に限定されているため」という回答がみられるが、これより団体や活動内容の規模によって利用する施設が変化することが考えられる。

事例No.5、No.6にみられる圏域外利用をする理由として、「公民館は無料で利用できるため」という回答がみられる。このような回答の背景として、平成23年4月に行われたコミュニティセンター等における諸室の有料化と体育施設

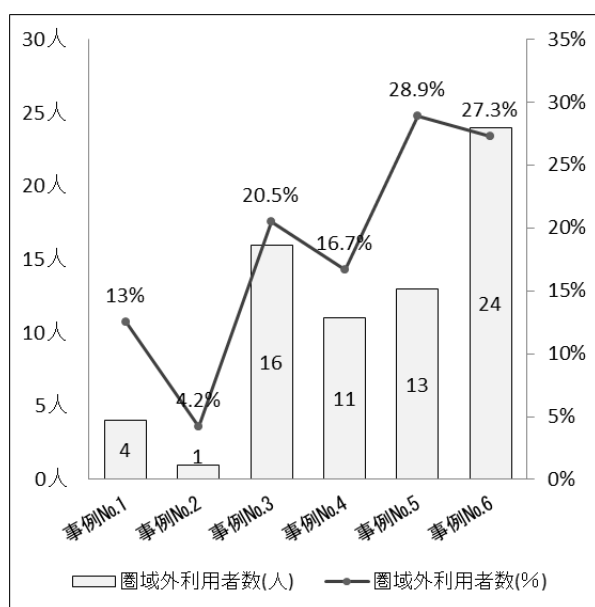


図2 圏域外利用者数

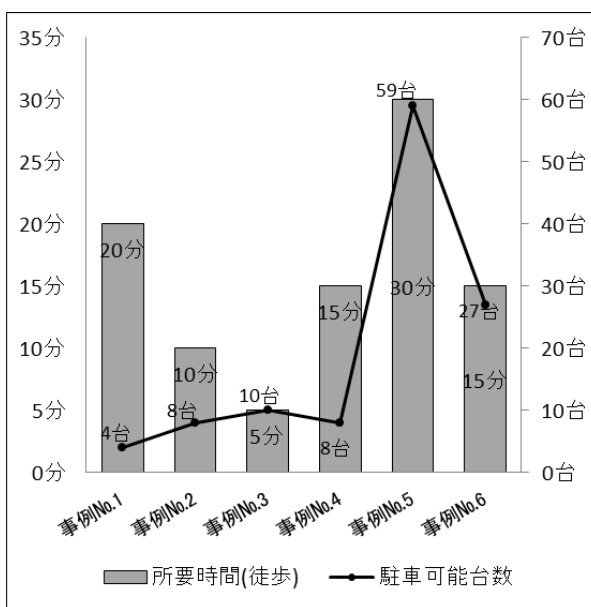


図3 最寄り駅からの所要時間と駐車可能台数

料金の改定がある。これより、コミュニティセンターの有料化が圏域外利用を促しているといえる。

4. まとめ

本稿より、圏域外利用について得られた知見は以下のとおりである。

- 1) 圏域外利用は多くとも 3 割に満たない割合だが、現状で行われており、施設間の距離が近いものに多いといえる。
- 2) 立地条件と交通条件においては、最寄り駅からの距離と駐車場の駐車可能台数が圏域外利用に関係する要因といえる。
- 3) 圏域外利用をする理由として最も多いものは、違う活動をするためという回答で、これより機能補完が行われているといえる。
- 4) 利用者数の多い施設においては、施設の使用回数を制限することにより圏域外利用が促されるといえる。
- 5) スプリングボード現象により圏域外利用が行われるといえる。
- 6) サークル活動の規模が圏域外利用を行う要因となっている。
- 7) コミュニティセンターにおいては、諸室の有料化が圏域外利用を行う要因となっている。

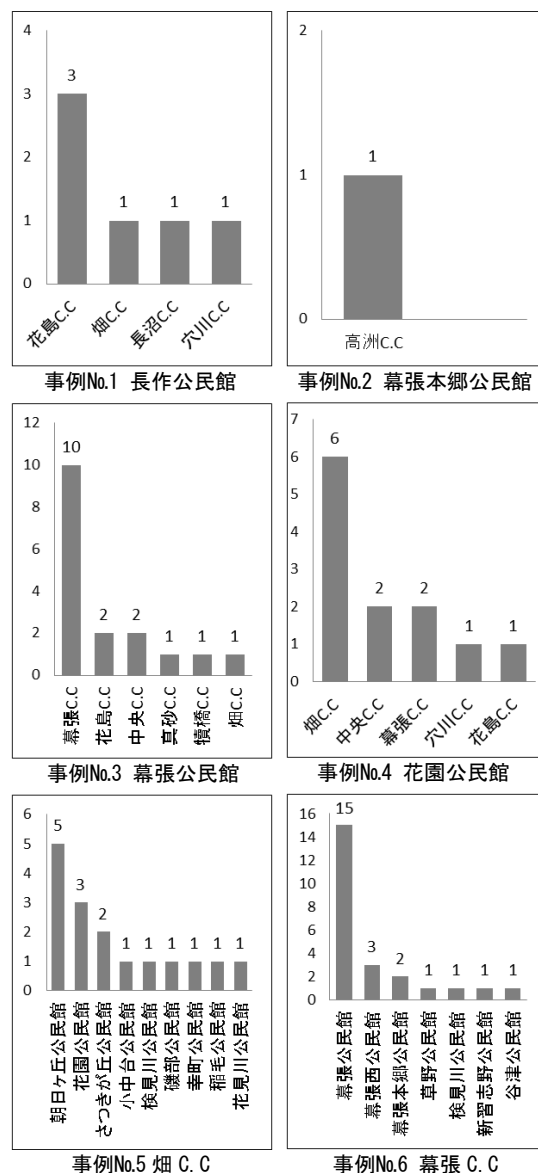


図 4 圏域外利用施設

表 5 圏域外利用を行う理由

事例No.	理由
1	違う活動をするため C.C主催の講習に参加 体育館を利用するため
2	違う活動をするため 公民館の部屋に空きがないため
3	違う活動をするため 公民館の部屋に空きがないため 月2回までしか部屋を借りることができないため イベントに参加するため
4	違う活動をするため より高いレベルの活動をするため 新たにサークルを立ち上げたため イベントに参加するため 公民館での活動は地域が限定されているため 図書室を利用するため
5	違う活動をするため 料金が無料のため 図書室を利用するため
6	違う活動をするため 無料で利用できるため 図書が充実しているため 距離が近く、都合の良い日に利用できるため

[注釈]

※ 施設が付近になれば遠方の施設も利用せず、かつ近傍に設置要求も高まらない。逆に付近に施設があれば、これをステップとして広域に類似した高度な施設を利用する。そしてこの場合の方が設置要求は高まる、という心理学的現象「学習効果」のひとつである。

[参考文献・資料]

- 1) 片桐隆博：千葉市コミュニティ施設における学習行為と空間の対応
- 2) 渡辺光雄：地域計画における公共施設の設置計画に関する研究 S. B. 現象について その 1